

システム概要

- ① 農業現場の見える化を目指し、クラウド環境を利用した営農計画・作業日誌・栽培履歴などを簡易入力出来るシステム。
- ② 作物の生育に関する情報(普及センターと連携)や気象情報といったもの全てがインターネット上から見られるようにしている。



導入経緯・背景

- 平成14年設立、経営耕地面積は165ha(麦、てん菜、ばれいしょ、豆類、かぼちゃ等)。
- 法人化し従業員が増加する過程の中で、各自の情報共有、連携を強化し、チーム力を十分に発揮する手段が無いかと模索していた。また価格低迷の中、付加価値をつけるために、自社内でのPDCAサイクルの構築、さらにJGAP認定取得後の帳票のペーパーレス化、これらを解決・導入するためにはITシステムが必要と考えた。
- JGAP取得に当たり、従業員の意識を向上させ、認証に必要な作業を行う動機付けをねらった。また、同時に適切な作業や作物の管理体制をアピールし、自社の付加価値向上による収益増を目標とした。

導入者コメント(効果・課題等)

- 作業情報は、実施したスタッフによって写真付きで記録、データが蓄積され、誰もがいつでも閲覧が可能。
- 過去データ、作業予定表により、次に何をすれば良いかを事前に理解し行動できる。
- スタッフがデータを見ながら相談し、作業日の予測・資材の使用実績から使用量予測が可能となった。
- GAP導入により、有利に販売できるシーンもでてきた。
- JGAP認証基準対応を目指して開発しており、通常の入力をしておけば、監査前にあわてて資料を集めるといったことがない。
- ITの導入が宣伝効果となり、視察、異業種交流が増えた。
- 気象などの情報と連動した生育予測が今後の課題。
- 気象、地図、農薬基準などのデータベースが無償で容易に使えると良い。
- 本システムの早期汎用化を目指したい。
- 蓄積されたデータを活用することによる、後継者育成など農業全体の技術向上に役立てたい。